

日南1号(にちなんいちごう)

登録番号：第1981号

育成者：野田明夫

登録年月日：平成元年9月14日

来歴：「興津早生」の枝変わり

登録者：野田明夫（宮崎県日南市大字東弁分甲1285番地）

特性

■栽培特性

日南1号は極早生ブームが一段落したあとに現れた出色の極早生である。

何よりの特長は樹勢が強いことである。多くの極早生は樹勢が弱いのが特性になっていたから、樹勢が強いのは大変な福音といえる。「興津早生」の枝変わりであるが、葉面積は「興津早生」より広い。葉身の幅は同じであるが、長さは1~2cm「日南1号」の方が長い。だから葉は細長くみえる。「宮本早生」に比べると葉面積は1.5倍以上もある。葉が大きいと一般に樹勢は強い。幼木時や高接ぎ初期には枝の伸長が旺盛だから、剪定はできるだけ軽くし葉数を確保する。枝の分岐角度が狭いから、主枝や亜主枝の骨格作りには分岐角度を適当な広さにとるように支柱に誘引する。他の極早生に比べて有葉果の割合が高い。群状結果させた場合でも春枝が発生するし、有葉の結果枝は結果母枝になるので、樹勢の弱い極早生で行っているような、予備枝を作るための摘らいや切り返し剪定はしなくてよい。夏枝に群状結果させた場合でも、下部に発生している春枝が有葉果のところで切り返せばよい。

■果実特性

果実の着色は9月中旬から始まり、完全着色するのは10月中旬である。発生地の日南市では、着色の進度は「宮本早生」よりも1週間早いという。完全着色果の果皮色は「宮本早生」よりも濃い。糖度は9月中旬に10度前後となり10月下旬には11度に達する。酸含量は9月中旬に1.2%で、下旬には1%前後となり、10月中旬には0.8%に下がり、その後はゆるやかに減酸する。果径指数は140程度で、「宮本早生」ほど偏平ではないが、偏平系に加えてよい。

筆者が平成4年9月25日に宮崎県総合農試（宮崎県佐土原町）を訪れた時、ポリマルチを施してあったが、本種の果実は7~8分着色であった。同日、日南の産地でポリマルチした果実を試食したが、糖度は12度近くありみごとな食味であった。

■地域適応性

本種は、筆者が極早生発生の初期に試みた分類の最も早熟なI型に配属されているようである。確かに9月下旬には着色も食味も進み出荷できるので、極早生の先陣を切っている。しかし、これは日南の恵まれた気象条件に本種が順応しているためと思われる。日南は春の訪れが早く、4月末から5月初めのゴールデンウィークには開花し、秋は遅く訪れ、10月になっても温度は高い。一般には高温だと着色は遅れるところだが、本種は高温下でも果肉の熟度とともに着色が進むような遺伝性を持っているのではあるまいか。

日南に進むような温暖な海岸地帯ならよいが、他地域への本種の導入は十分な配慮が必要であろう。

(岩政正男)